博士論文（要約）

論文題目　日本における彫刻シンポジウム：芸術家の共同体と彫刻の社会化の観点から

氏名　柴田　葵

目次

1　序章
1.1　研究の背景と問題設定
1.2　シンポジウム研究の意義
1.3　本論文の構成
2　石彫と野外彫刻の思想
2.1　石の直彫り彫刻の系譜
2.1.1　塑造と彫刻
2.1.2　直彫り彫刻の復権
2.1.3　英国における石彫とその美学
2.1.4　ヴォトルバからプラントルへ
2.1.5　石彫における作者の主体性
2.2　野外彫刻の思想
2.2.1　ボードレールの彫刻批判
2.2.2　表面の光と環境制御：ブランクーシ
2.2.3　彫刻の自律性問題の克服：ムーア
2.3　小括
3　彫刻シンポジウムの理念と展開
3.1　彫刻シンポジウムの誕生
3.1.1　冷戦構造下におけるハンガリー動乱と「境界石」
3.1.2　プラントルとヨーロッパ彫刻家のシンポジウム
3.2　シンポジウムと発展と変容
3.2.1　国際的な芸術運動へ
3.2.2　シンポジウムの巨大化と理念の多様化
3.3　到達点と限界:1970
3.3.1　彫刻シンポジウムへの批判
3.3.2　ザンクト・マルガレーテンの「日本の溝」
3.3.3　シュテファン広場のプロジェクト
3.3.4　小括

4　戦後日本の現代彫刻
4.1　「彫刻の後進性」からの脱却
4.2　抽象彫刻の台頭
4.2.1　抽象彫刻の場と担い手
4.2.2　現代フランス彫刻からの影響
4.3　国際的な美術シーンへの参入
4.4　美術館の建設と彫刻展覧会
4.5　公共空間におけるモニュメント
4.5.1　近代日本の銅像建設
4.5.2　戦後のモニュメント建設
4.6　野外彫刻展
4.6.1　1950-60 年代の欧米における野外彫刻展
4.6.2　戦後日本の野外彫刻展
4.6.3　批評家の果たした役割：土方定一
4.7　宇部の彫刻
5　第 1 期(1963-1972)草創期
5.1　東京オリンピックと世界近代彫刻シンポジウム
5.1.1　シンポジウムの概要
5.1.2　背景：何が世界近代彫刻シンポジウムを成立させたか
5.1.3　考察：野外彫刻に求められた役割
5.1.4　小括
5.2　大阪万博と国際鉄鋼彫刻シンポジウム
5.2.1　背景(1)彫刻シンポジウムの運動
5.2.2　背景(2)1960 年代の野外彫刻
5.2.3　背景(3)マスメディア主導の現代美術展
5.2.4　シンポジウムの概要
5.2.5　考察：彫刻シンポジウムと万博との関係
5.2.6　小括
5.3　彫刻家の共同体
5.3.1　青年たちの彫刻シンポジウムと学園闘争の時代

5.3.2　彫刻村の系譜
5.3.3　帯広石彫シンポジウム：北海道石彫の先駆け
5.3.4　小豆島彫刻シンポジウムと環境造形Q
5.3.5　小括
6　第2期(1973-1981)「彫刻のあるまちづくり」との連携
6.1　自治体文化行政の始まり
6.2　文化の1%システム
6.3　1970年代の彫刻設置事業
6.4　まちづくりとシンポジウムの邂逅
6.5　岩手町国際石彫シンポジウム
6.5.1　エコール・ド・エヌの石彫実習会
6.5.2　国際石彫シンポジウム
6.5.3　運営と財政
6.5.4　作品設置と彫刻公園
6.5.5　石神の丘美術館
6.6　盛岡彫刻シンポジウム
6.7　八王子彫刻シンポジウム
6.7.1　ニュータウン八王子の「彫刻によるまちづくり」
6.7.2　彫刻100基設置
6.8　松阪彫刻シンポジウム
6.9　小括
7　第2期(1973-1981)都市計画・景観デザイン・環境芸術
7.1　1970年代ヨーロッパでの動き
7.2　景観デザインと環境芸術
7.2.1　景観デザインの発展
7.2.2　イサム・ノグチの環境芸術
7.3　第2期における協働制作
7.3.1　紀伊長島レクリエーション都市のモニュメント
7.3.2　環状彫刻シンポジウム
7.3.3　諏訪湖国際彫刻シンポジウム：リンダブルンの影響下

7.3.4　萩彫刻シンポジウムと都市公園
7.4　第 3 期における協働制作と田辺武
7.4.1　学術研究都市のランドスケープデザイン
7.4.2　村岡町国際彫刻シンポジウム
7.4.3　秋穂国際彫刻シンポジウム
7.5　小括
8　第 3 期(1982-1999)全盛期
8.1　日本における「パブリック・アート」
8.1.1　パブリック・アート概念の受容
8.1.2　日本のパブリック・アート概念の特殊性
8.1.3　パブリック・アートと彫刻シンポジウム
8.2　彫刻のあるまちづくり・ふるさと創生事業
8.3　地域活性化と地場産業の振興
8.4　彫刻公園の造成
8.5　小括
9　第 4 期(2000-)低迷期と新時代へ
9.1　北九州の鉄鋼彫刻シンポジウムと地域再生
9.1.1　国際鉄鋼彫刻シンポジウム Yahata'87
9.1.2　国際鉄鋼彫刻シンポジウム'93 リサイクル
9.1.3　CASK(現代美術ソサエティ北九州)/CCA 北九州
9.2　アーティスト・イン・レジデンス
9.2.1　アーティスト・イン・レジデンスの成立背景
9.2.2　彫刻シンポジウムから AIR へ
9.3　アート・プロジェクトの時代
9.3.1　アート・プロジェクトとは何か
9.3.2　1990 年代から 2000 年代にかけての興隆
9.4　小括
10　終章
10.1　総括と結論
10.1.1　彫刻シンポジウムの流れ

10.1.2　彫刻シンポジウムの主体と目的達成
10.2　本論文の位置づけと今後の課題
11　付論 1：日本のアート・プロジェクト(1990-2017)
11.1　アート・プロジェクトとは何か
11.2　前史：脱美術館とサイト・スペシフィック
11.3　日本におけるアート・プロジェクトの歴史
11.4　アート・プロジェクトの理論的検討
12　付論 2：アーカイブズとドキュメンテーション：芸術活動の記録と記憶
12.1　はじめに：問題設定とその背景
12.2　アーカイブズとドキュメンテーション
12.2.1　アーカイブズ
12.2.2　アート・ドキュメンテーション
12.2.3　創作の一環としてのドキュメンテーション
12.2.4　アート・アーカイブズの歴史と事例
12.2.5　機関内アーカイブと収集レポジトリ
12.2.6　日本におけるアート・アーカイブズ
12.2.7　小括
12.3　パブリック・アート関連資料のドキュメンテーション
12.3.1　なぜパブリック・アートの関連資料に注目すべきか
12.3.2　ポスト・カストディアル時代の「プロセスに結びついた情報」概念
12.3.3　パブリック・アート関連資料の類型化
12.3.4　パブリック・アート資料の記述編成
12.3.5　パブリック・アート資料の保存と公開
12.4　終わりに
資料編
日本の彫刻シンポジウム　データベース
主要なオーガナイザーの年譜

本文

当博士論文『日本における彫刻シンポジウム：芸術家の共同体と彫刻の社会化の観点から』は、単行本として学位授与日から 5 年以内に公刊予定であるため、全文公表できません。

参考文献一覧

【シンポジウム全般】

Ivan Bacon-Perroud. Marie Savine, *Un musée sans murs : Le premier Symposium francais de sculpture Grenoble, ete 1967,*Musee Dauphinois. Magasin / Cantre national d'art contemporain, 1998

Dittmann, Marlen und Lorenz, *Karl Prantl: Grosse Stein Und Bildhauersymposien*, 2007

後藤敏伸、松尾豊「彫刻シンポジウムの歴史と到達点(日本)」『富山大学教育学部紀要. A 文科系』通号 43, 富山大学, 1993. 6., pp.13-22

鈴木徹、井田勝巳「日本における彫刻シンポジウムの現状 Vol.1」『文教大学教育学部紀要』通号 30, 文教大学, 1996., pp.74-84

鈴木徹、井田勝巳「日本における彫刻シンポジウムの現状 Vol.2」『文教大学教育学部紀要』通号 31, 文教大学, 1997., pp.35-44

Sotriffer, Kristian, *Symposion Europäischer Bildhauer*, 1969

高橋亨「彫刻シンポジウムを考える」『石彫 produce』8, 渡辺石彫事務所, 1980. 10., pp.93-96

「座談会　石彫シンポジウムに参加して」『モニュメントプロデュース』31, 渡辺石彫事務所・渡辺石整社, 1989. 3., pp.9-17

竹田直樹、八木健太郎「彫刻シンポジウムにおけるランドスケープデザインを試みた共同制作について」『環境芸術』3, 環境芸術学会

竹田直樹、八木健太郎「彫刻シンポジウムによる彫刻設置事業の発生と変遷」『環境芸術』5・6, 環境芸術学会

竹田直樹『日本の彫刻設置事業』公人の友社, 1997.

竹田直樹『八木ヨシオの彫刻コミュニケーション』マルモ出版, 2002.

竹田直樹、沈悦、斎藤庸平 「公的空間における彫刻の作品選定システムについて(平成 12 年度 日本造園学会研究発表論文集(18)) 」『ランドスケープ研究』63(5), 日本造園学会, 2000. 3., pp.675-678

竹田直樹、八木健太郎「彫刻設置事業と彫刻シンポジウムの融合の問題点に関する考察」（平成 15 年度日本造園学会全国大会 研究発表論文集(21))『ランドスケープ研究』66(5), 日本造園学会, 2003. 3., pp.465-468

竹田直樹「モニュメントとパブリックアート-III-彫刻シンポジウム再考」『モニュメントプロデュース』37, 渡辺石整社モニュメント事業部, 2000., pp.144-149

坪井勝人「もうひとつの美術大学 ： 彫刻シンポジウムと名古屋造形芸術短大の学生達 」『名古屋造形芸術大学名古屋造形芸術短期大学紀要』3, 名古屋造形芸術大学, 1997., pp.85-120

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

Thoman-Oberhofer, Elizabeth, *Karl Prantl Sculpture*, Zurich, 1997

渡辺益国「平成元年の野外彫刻」『モニュメントプロデュース』32, 渡辺石彫事務所・渡辺石整社, 1990. 1., pp.34-35

Wortmann, Jutta Birgit, *Bildhauersymposien: Entstehung - Entwicklung – Wandlung*, Peter Lang, Frankfrurt, 2006

八木健太郎、竹田直樹「彫刻シンポジウムにおけるコラボレーションによる公共空間デザインに関する考察」（平成 14 年度日本造園学会研究発表論文集(20)）『ランドスケープ研究』65(5), 日本造園学会, 2002. 3., pp.869-874

「地方都市と国際彫刻シンポジウム」『芸術新潮』, 新潮社, 1978. 10., pp.21

【石材文化】

矢橋謙一郎『石の文化誌』風媒社, 2002.

渡辺益国『石屋史の旅』渡辺石彫事務所, 1987.

『石材・石工芸大事典』鎌倉新書, 1978.

島津光夫『日本の石の文化』新人物往来社, 2007.

日本石材史編纂委員会『日本石材史』日本石材史編纂委員会, 1956.

川勝政太郎『日本石材工藝史』綜藝舎, 1957.

【世界近代彫刻日本シンポジウム】

『世界近代彫刻シンポジウム』朝日新聞社, 1963.

『世界近代彫刻日本シンポジウム』（写真集）青木石材（株）所有, 1963[c].

宗左近「彫刻の場」『芸術生活』, 芸術生活社, 1963. 7.,

藤本四八「世界近代彫刻シンポジウム」『三彩』通号 166, 三彩社, 1964. 9.,

「石を刻む：世界近代彫刻シンポジウム」『アサヒカメラ』, , 1965. 10.,

田中穣「世界近代彫刻シンポジウムその会場を訪ねて」『みづゑ』通号 704, 美術出版社, 1966. 10.,

「シンポジウムの顔：オギュスタン・カルデナス」『芸術生活』, 芸術生活社, 1967. 10.,

針生一郎「作品のある空間」『芸術生活』, 芸術生活社, 1968. 12.,

「真鶴の国際彫刻シンポジウム」『芸術新潮』, 新潮社, 1969., pp.18

南英明「世界近代彫刻日本シンポジウム」『みずゑ』, 美術出版社, 1970.,

Mizui, Yasuo, *THE MANAZURU SYMPOSIUM, Japan Quarterly* 11-2(Apr 1, 1964)

「世界近代彫刻シンポジウム野外展：新宿御苑にて」『みずゑ』, 美術出版社, 1971.,

橋本徳治『真鶴に十六年』真鶴町教育委員会所蔵, 1965.

平井大海「世界近代彫刻日本シンポジウムについて」『真鶴』第 5 号, 郷土を知る会真鶴町役場内, 1969.,

川ノ邉昭治「世界に羽ばたく小松石」『文化財だより』第 16 号, 真鶴町教育委員会, 2000. 3.,

真鶴町『真鶴町史』真鶴町, 1993-1995.

遠藤勢津夫『真鶴の小松石--その採掘の歴史と社会的歴史的役割』神奈川県立図書館調査部地域資料課 編/神奈川県立図書館, 2003. 3.

『真鶴の文化財　石材業編 2』,

『真鶴の文化財　石材業史編 6』,

【霧ケ峰彫刻シンポジウム】

竹田直樹『八木ヨシオの彫刻コミュニケーション』マルモ出版, 2002.

大成浩「霧ヶ峰彫刻シンポジウム」『桑沢デザイン研究所　研究レポート』(4), 1967.

【小豆島彫刻シンポジウム（日本青年彫刻家シンポジウム)】

『'91 小豆島国際石彫シンポジウム』,

酒井忠康『環境造形 Q』空間造形コンサルタント, 1986.

小林陸一郎,環境造形 Q『小林陸一郎と環境造形 Q』伊丹市立美術館, 2005.

山本哲三「小豆島、サンクト・マルガレーテン、そして彫刻シンポジューム」大阪芸術彫塑年報 1, 大阪芸術大学, 1972.,

小林陸一郎「彫刻の共同制作」『石彫 produce』7, 渡辺石彫事務所, 1980. 1., pp.81-84

【田沢湖木彫シンポジウム（日本青年彫刻家シンポジウム、秋田県彫刻シンポジウム)】

秋田県彫刻連盟『秋田の彫刻－野外彫刻を中心に－』,

『第 20 回記念秋田県彫刻シンポジウム作品集』,

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【国際鉄鋼彫刻シンポジウム】

『国際鉄鋼彫刻シンポジウム 1969-70』毎日新聞社, 1970.

飯田善国「ヨーロッパ彫刻家のシンポジオン」『国際文化』166, 財団法人国際文化振興会, 1968. 4., pp.6-9

飯田善国「アトリエに前衛の夢みのる」『毎日グラフ』, 毎日新聞社, 1969. 2. 23., pp.30-39

飯田善国「世界の前衛彫刻家」『毎日グラフ』, 毎日新聞社, 1969. 2. 23., pp.55-62

「芸術生活　11 月メモ　国際鉄鋼彫刻シンポジウム」『芸術生活』, 芸術生活社, 1969. 11., pp.168

「現代彫刻の可能性--国際鉄鋼彫刻シンポジウム〔昭 44.10〜11 大阪〕参加 13 作家の発言(特集)」『みづゑ』通号 779, 美術出版社, 1969. 12., pp.1-27

峯村敏明「今月の焦点　国際鉄鋼彫刻シンポジウム」『美術手帖』322, 美術出版社, 1970. 1., pp.138

飯田善国「シンポジウム終る」『芸術新潮』, 新潮社, 1970. 2., pp.82

「鉄の芸術は主張する」『毎日グラフ』, 毎日新聞社, 1970. 2. 15., pp.55-63

北村由雄「国際鉄鋼彫刻シンポジウムの残したもの」『美術手帖』通号 326, 美術出版社, 1970. 4., pp.142-157

乾由明「鑑賞席　豊かなアクセント」『朝日ジャーナル』, 朝日新聞社, 1970. 7. 12., pp.26

栗田勇「万博で遊ぶ前衛芸術」『芸術新潮』, 新潮社, 1970. 3., pp.164-168

「鉄に挑む―国際鉄鋼シンポジウムの 10 人」『芸術生活』244, 芸術生活社, 1969. 12.,

飯田善国「彫刻シンポジウムを生きた：ジャン・ティンゲリーの場合」『えすぷりあい』, 文化実業社, 1969. 冬.,

「鉄の芸術」『万博グラフ』, 共同通信社, ,

「鉄の彫刻」『週刊現代』, 講談社, 1970. 3. 19.,

「新潮ギャラリー」『週刊新潮』, 新潮社, 1970. 3. 21.,

高階秀爾「生活空間の美　飯田善國　傾く（コスモス)」『諸君！』, , 1970. 4.,

「自然空間の中の彫刻」　『aaia』No. 6, 建築美術工業協会, 1972. 4., pp.19

【帯広石彫シンポジウム】

竹田直樹『日本のパブリックアート』誠文堂新光社, 1995.

吉崎元章「北海道の石彫」, 藤田観龍『日本・石の野外彫刻』本の泉社, 2008., pp.315-316

「彫刻の径」（パンフレット）帯広市緑化環境部みどりと花の課, 不明.

【郡上八幡青年彫刻家シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【彫刻村】

石川裕　「地域における造形活動 そのⅠ彫刻の村」『江南女子短期大学紀要』20, 江南女子短期大学, 1991.,

石川裕　「地域における造形活動 そのⅡ彫刻村」『江南女子短期大学紀要』21, 江南女子短期大学, 1992.,

石川裕　「地域における造形活動 そのⅢ 彫刻村 IN GUJYO」『江南女子短期大学紀要』24, 江南女子短期大学, 1995., pp.31-47

【岩手町国際石彫シンポジウム】

岩手町教育委員会『彫刻のある町』岩手町教育委員会, 1994.

『齋藤忠誠展－具象から抽象へ』岩手町立石神の丘美術館, 2002.

『岩手町国際石彫シンポジウム 30 回記念　石神の丘美術館会館 10 周年記念彫刻小作品展』岩手町立石神の丘美術館, 2003.

『岩手町国際石彫シンポジウム北緯 40 度石彫シンポジウム』岩手町教育委員会, 1999.

新妻実「齋藤さんと石彫シンポジウム」齋藤忠誠遺作展実行委員会, 1986.

新妻実「すばらしい石彫公園」『エコール・ド・エヌ』第 19 号, , 1986. 12.,

佐々木康博「”彫刻の町”が誇りに　素材は町産の黒御影石」『月刊地域づくり』, , 1997. 3.,

「彫刻公園のある町　岩手町彫刻公園」（小冊子）岩手町教育委員会社会教育課, 1987.

【紀伊長島彫刻シンポジウム】

『'73　'80 紀伊長島彫刻シンポジューム』,

西沢 成宜「レクリエーション都市（観光開発特集）」『自治研究』47(1), , 1971. 1., pp.59-68

建設省都市局「レクリエーション都市」構想（レクリエーション施設への提言(特集)）『建設月報』24(4), , 1971. 4., pp.38-41

五十嵐 誠「レクリエーション都市」構想（レクリエーション施設への提言(特集)）『近代建築』26(11), , 1972. 11., pp.58-62

【甲山森林公園石彫シンポジウム】

『石彫シンポジウム ： 県立甲山森林公園 ： 各国産の大理石に挑んで』石彫シンポジウム運営委員会, 1973.

【盛岡彫刻シンポジウム】

『盛岡彫刻シンポジウム報告書: 1975-1994』盛岡彫刻シンポジウム実行委員会, 1995.

「彫刻と出合う街」（小冊子）盛岡中央通振興会, 1995.

【八王子彫刻シンポジウム】

『八王子彫刻シンポジウム報告書』八王子青年会議所, 1976.

八王子彫刻シンポジウム実行委員会企画編『彫刻のある街づくり ＝Sculpture in town planning』八王子彫刻シンポジウム実行委員会事務局, 1984-1987.

八王子彫刻シンポジウム実行委員会編『第 7 回八王子彫刻シンポジウム　彫刻のある街づくり ： 市民文化と都市環境の理想を求めて』八王子市コミュニティ振興会, 1988.

八王子彫刻シンポジウム実行委員会編『第 8 回八王子彫刻シンポジウム　彫刻が道しるべ八王子』八王子市コミュニティ振興会, 1992.

Tama らいふ 21--八王子彫刻フェスティバル実行委員会『第 9 回八王子彫刻シンポジウム』Tama らいふ 21--八王子彫刻フェスティバル実行委員会, 1992.

八王子彫刻シンポジウム実行委員会編『第 10 回八王子彫刻シンポジウム』八王子彫刻シンポジウム実行委員会, 1992.

竹田直樹『日本の彫刻設置事業』所収、第 6 章「八王子市－彫刻シンポジウムと設置事業の合体」公人の友社, 1997.

柳生不二雄「彫刻のあるまちづくり=八王子市--彫刻シンポジウムと 100 点設置をめざして」『三彩』451, 三彩社, 1985. 4., pp.76-83

増田正和「報告　八王子彫刻シンポジウム」『石彫 produce』23, 渡辺石彫事務所, 1985. 1., pp.315-317

【川越野外彫刻シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【釜沢石彫シンポジウム】

松田大「長岡「石彫の道」の考察－地域の文化財をいかした教材について－」上越教育大学修士論文, 2008.

【雲洞庵彫刻シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【諏訪湖国際彫刻シンポジウム】

『'78 諏訪湖国際彫刻シンポジウム』諏訪湖国際彫刻シンポジウム事務局, 1978.

【岡崎・琉球島石彫シンポジウム】

『岡崎　琉球島石彫シンポジウム　資料集』資料編集委員会, 1981.

【円盤石彫刻シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【環状彫刻シンポジウム】

『環状彫刻シンポジウム』, 1981.

【土の彫刻シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【飯高町彫刻シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【松阪彫刻シンポジウム】

松阪青年会議所編『松阪彫刻シンポジウム : 1979-1983 : 生活の中に造形を』松阪青年会議所, 1983.

田畑進「「松阪彫刻シンポジウム」から第三回までの報告」『石彫 produce』12, 渡辺石彫事務所, 1981. 10., pp.141-144

「石を彫る男 18　田畑進」『石彫 produce』18, 渡辺石彫事務所, 1983. 8., pp.224

【萩国際彫刻シンポジウム】

『萩国際彫刻シンポジウム』萩市, 1982.

曽我恵子「萩国際シンポジウムを訪ねて」『石彫 produce』13, 渡辺石彫事務所, 1982. 1., pp.157-160

【中日森の彫刻シンポジウム】

中日新聞本社『中日森の彫刻シンポジウム（第 2 回)』, 1984.

中日新聞本社『中日森の彫刻シンポジウム（第 3 回)』, 1985.

中日新聞本社『中日森の彫刻シンポジウム（第 4 回)』, 1986.

柳生不二雄「彫刻のあるまちづくり--名古屋・内海 「まちづくりのなかの彫刻」と浄心緑道中日森の彫刻シンポジウムなど」『三彩』通号 459, 三彩社, 1985. 12., pp.96-104

【岩間石彫シンポジウム（シンポジウム・イン・イワマ)】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【緑と彫刻国際彫刻シンポジウム】

藤嶋俊会『かながわの野外彫刻』神奈川新聞社, 1997.

『緑と彫刻国際彫刻シンポジウム』川崎市, 1983.

【大宮彫刻シンポジウム】

『大宮彫刻シンポジウム』あるてぽりす大宮'84, 1984.

【阿蘇国際彫刻シンポジウム】

『阿蘇国際彫刻シンポジウム』阿蘇国際彫刻シンポジウム実行委員会事務所, 1984.

【岐阜現代シンポジウム 1985】

『岐阜現代彫刻シンポジウム』岐阜現代彫刻シンポジウム実行委員会, 1985.

【播磨新宮石彫シンポジウム（西播磨石彫シンポジウム)】

兵庫県立西播磨文化会館『石彫シンポジウム in 播磨新宮』兵庫県立西播磨文化会館, 1985.

みんなで創る文化実行委員会編『石彫シンポジウム in 播磨新宮'86　第 2 回』みんなで創る文化実行委員会, 1986.

大西章夫編『石彫シンポジウム in 播磨新宮'87』(第 3 回)大西章夫, 1988.

大西章夫編『播磨新宮石彫シンポジウム　第 4 回('88)』大西章夫, 1989.

大西章夫編『播磨新宮石彫シンポジウム　第 5 回('89)』, 1990.

大西章夫編『播磨新宮石彫シンポジウム　第 6 回('90)』, 1991.

大西章夫編『播磨新宮石彫シンポジウム　第 7 回('91)』, 1992.

大西章夫編『播磨新宮石彫シンポジウム　第 8 回('92)』, 1993.

大西章夫編『播磨新宮石彫シンポジウム　第 9 回('93)』, 1994.

みんなで創る文化実行委員会『第 10 回記念'94 播磨新宮石彫シンポジウム』みんなで創る文化実行委員会, 1995.

西播磨石彫シンポジウム実行委員会編『'96 西播磨石彫シンポジウム : みずみずしい芸術的感性あふれる地域づくり』西播磨石彫シンポジウム実行委員会, 1996-1997.

西播磨石彫シンポジウム実行委員会編『'97 西播磨国際彫刻シンポジウム』西播磨石彫シンポジウム実行委員会, 1998.

西播磨石彫シンポジウム実行委員会編『'99 西播磨彫刻シンポジウム in AIOI』西播磨石彫シンポジウム実行委員会, 2000.

西播磨彫刻シンポジウム神崎郡実行委員会編『KISS シンポ : 「交流とコラボレーション」』西播磨彫刻シンポジウム神崎郡実行委員会, 2002.

大西章夫「播磨新宮石彫シンポジウム　行政が果たす役割」『モニュメントプロデュース』31, 渡辺石彫事務所・渡辺石整社, 1989. 3., pp.19

【大月町国際シンポジウム】

AC プロ編『'92 大月町国際彫刻シンポジウム』92 大月町「国際彫刻シンポジウム」実行委員会, 1992.

久保極「報告　大月町国際彫刻シンポジウム」『石彫 produce』26, 渡辺石彫事務所, 1986. 1., pp.363-365

【かやぬま彫刻シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【白馬'87 野外彫刻シンポジウム】

『白馬'87 野外彫刻シンポジウム』, 1987.

【国際鉄鋼彫刻シンポジウム Yahata'87】

『国際鉄鋼彫刻シンポジウム-YAHATA'87』国際鉄鋼彫刻シンポジウム-YAHATA'87 実行委員会, 1987.

加瀬田昭生著 ; 鉄鋼彫刻を北九州市に残す会, 北九州市教育委員会編『ひょうたんから鯨 ：「国際鉄鋼彫刻シンポジウム YAHATA'87」から』ぎょうせい, 1988.

『Casting iron Yahata '87～'89 : exhibition of Masaaki Nishi』北九州市立美術館, 1989.

【国際鉄鋼彫刻シンポジウム北九州'93】

『ザ・リサイクル ： 第 2 回国際鉄鋼彫刻シンポジウム--北九州'93』北九州市, 1995.

『都市の中のアート：パブリックアート・フォーラム第三回シンポジウム・福岡の記録』パブリックアート・フォーラム, 1997.

美術手帖編集部「「ザ・リサイクル」第 2 回国際鉄鋼彫刻シンポジウム--北九州′ 93--鉄の変幻」『美術手帖』通号 683, 美術出版社, 1994. 2., pp.199-206

【黒島国際石彫シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【奥日田上津江彫刻シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【那須国際彫刻シンポジウム】

那須彫刻シンポジウム運営委員会編集『'88 那須彫刻シンポジウム』那須彫刻シンポジウム運営委員会, 1988.

【現代彫刻美術館野外彫刻ビエンナーレシンポジウム】

『第 1 回現代彫刻美術館野外彫刻ビエンナーレシンポジウムあさま彫刻展』現代彫刻美術館, 1989.

『第 2 回現代彫刻美術館野外彫刻ビエンナーレシンポジウム・上田市制 70 周年記念展』現代彫刻美術館, 1990.

『第 3 回現代彫刻美術館野外彫刻ビエンナーレシンポジウム草津静可山展』現代彫刻美術館, 1993.

『第 4 回現代彫刻美術館野外彫刻ビエンナーレシンポジウム草津高原展』現代彫刻美術館, 1996.

【犬山野外彫刻シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【美濃加茂彫刻シンポジウム】

『清流と彫刻の街　第 1 回・第 2 回美濃加茂彫刻シンポジュウム』美濃加茂彫刻シンポジウム実行委員会, 1989.

『美濃加茂彫刻シンポジウム'90』美濃加茂彫刻シンポジウム'90 実行委員会, 1990.

『美濃加茂彫刻シンポジウム'91-'92』美濃加茂青年会議所, 1992.

「美濃加茂彫刻シンポジウム'94『夢構築』企画書」美濃加茂彫刻シンポジウム実行委員会, 1994.

【米子彫刻シンポジウム】

『米子彫刻シンポジウム（1988-2006)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 2006.

『米子彫刻シンポジウム（1988)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 1988.

『米子彫刻シンポジウム（1990)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 1990.

『米子彫刻シンポジウム（1992)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 1992.

『米子彫刻シンポジウム（1994)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 1994.

『米子彫刻シンポジウム（1996)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 1996.

『米子彫刻シンポジウム（1998)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 1998.

『米子彫刻シンポジウム（2000)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 2000.

『米子彫刻シンポジウム（2002)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 2002.

『米子彫刻シンポジウム（2004)』米子彫刻シンポジウム実行委員会, 2004.

佐善 圭「子どもの体験学習における造形活動の一考察--米子彫刻シンポジウムにおける「彫刻教室」の実践について」『東北芸術工科大学紀要』14, 東北芸術工科大学, 2007. 3., pp.34-43

【石のさとフェスティバル】

石のさとフェスティバル運営委員会『石のさと ：石の彫刻シンポジウムアートマップ』石のさとフェスティバル運営委員会,

『石のさとフェスティバル ：石の彫刻国際シンポジウム（第 1 回 ：1988)』庵治町・牟礼町石のさとフェスティバル運営委員会, 1988.

『石のさとフェスティバル ：石の彫刻国際シンポジウム（第 2 回 ：1991)』庵治町・牟礼町石のさとフェスティバル運営委員会, 1991.

『石のさとフェスティバル ：石の彫刻国際シンポジウム（第 3 回 ：1994)』庵治町・牟礼町石のさとフェスティバル運営委員会, 1994.

『石のさとフェスティバル ：石の彫刻国際シンポジウム（第 4 回 ：1997)』庵治町・牟礼町石のさとフェスティバル運営委員会, 1997.

『石のさとフェスティバル ：石の彫刻国際シンポジウム（第 5 回 ：2000)』庵治町・牟礼町石のさとフェスティバル運営委員会, 2000.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 1 回　石の彫刻コンクール展』石のさとフェスティバル運営委員会, 1988.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 2 回　石の彫刻コンクール展』石のさとフェスティバル運営委員会, 1991.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 3 回　石の彫刻コンクール展』石のさとフェスティバル運営委員会, 1994.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 5 回　石の彫刻コンクール展』石のさとフェスティバル運営委員会, 2000.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 7 回　石の彫刻コンクール展』石のさとフェスティバル運営委員会, 2007.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 2 回　石のさとフェスティバル』（パンフレット）石のさとフェスティバル運営委員会, 1991.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 5 回　石のさとフェスティバル』（パンフレット）石のさとフェスティバル運営委員会, 2000.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 6 回　石のさとフェスティバル』（パンフレット）石のさとフェスティバル運営委員会, 2003.

石のさとフェスティバル運営委員会『第 7 回　石のさとフェスティバル』（パンフレット）石のさとフェス

ティバル運営委員会, 2007.

速水史朗「第 1 回石のさとフェスティバル　石の彫刻国際シンポジウム」『モニュメントプロデュース』31, 渡辺石彫事務所・渡辺石整社, 1989. 3., pp.18

【瀬戸の都・高松　石彫トリエンナーレ】

瀬戸の都・高松　石彫トリエンナーレ 2009 実行委員会『瀬戸の都・高松　石彫トリエンナーレ 2009』（パンフレット）瀬戸の都・高松　石彫トリエンナーレ 2009 実行委員会, 2009.

【せんだい国際彫刻シンポジウム'89】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【富士見高原創造の森国際彫刻シンポジウム】

『第 1・2 回富士見高原創造の森国際彫刻シンポジウム』富士見高原創造の森彫刻シンポジウム運営委員会, 1990.

『第 3・4 回富士見高原創造の森国際彫刻シンポジウム』富士見高原創造の森彫刻シンポジウム運営委員会, 1992.

『第 5・6 回富士見高原創造の森国際彫刻シンポジウム』富士見高原創造の森彫刻シンポジウム運営委員会, 1994.

『第 7・8 回富士見高原創造の森国際彫刻シンポジウム』富士見高原創造の森彫刻シンポジウム運営委員会, 1996.

【佐久大理石彫刻家シンポジウム】

第 1 回佐久彫刻シンポジウム実行委員会編『自然と共生する造形への提案 ： 第 1 回佐久彫刻シンポジウム』第 1 回佐久彫刻シンポジウム実行委員会, 1997.

長野県佐久大理石彫刻シンポジウム実行委員会企画部会編『長野県佐久大理石彫刻シンポジウム』第 2 回（1990）長野県佐久大理石彫刻シンポジウム実行委員会, 1990.

長野県佐久大理石彫刻シンポジウム実行委員会企画部会編『長野県佐久大理石彫刻シンポジウム』第 3 回（1991)長野県佐久大理石彫刻シンポジウム実行委員会, 1991.

長野県佐久大理石彫刻シンポジウム実行委員会企画部会編『長野県佐久大理石彫刻シンポジウム』 第 4 回

(1992)長野県佐久大理石彫刻シンポジウム実行委員会, 1992.
長野県佐久大理石彫刻シンポジウム実行委員会企画部会編『長野県佐久大理石彫刻シンポジウム』 第 5 回
(1993)長野県佐久大理石彫刻シンポジウム実行委員会, 1993.

【国際野外シンポジウム碧南】
『碧南の彫刻のあるまちづくり第 2 集』碧南市民憲章推進協議会, 1989.
柳生不二雄「彫刻のあるまちづくり--碧南市--小さな都市とはいえ,着々と 」『三彩』, 三彩社, ,

【石の道いけだ彫刻シンポジウム】
池田市市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム'90 - '95』池田市市長室文化課, 1991.
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'89』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'90』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'91』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'92』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'93』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'94』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'95』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'96』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『石の道・いけだ彫刻シンポジウム　'97』池田市役所市長室文化課,
池田市役所市長室文化課編『Ishi no michi いけだ ： 彫刻シンポジウム ： 彫刻のあるプロムナード』, 1991.

【かさおか石彫シンポジウム】
かさおか石彫シンポジウム実行委員会編集『第 1 回かさおか石彫シンポジウム ： 石の可能性を探る』かさおか石彫シンポジウム実行委員会, 1990.
かさおか石彫シンポジウム実行委員会編集『第 2・3 回かさおか石彫シンポジウム ： 石の可能性を探る』かさおか石彫シンポジウム実行委員会,
かさおか石彫シンポジウム実行委員会編集『第 4 回かさおか石彫シンポジウム ： 石の可能性を探る』かさおか石彫シンポジウム実行委員会,
『芸術は都市空間に何をもたらすか：パブリックアート・フォーラム第二回全国シンポジウムの記録』パブリックアート・フォーラム, 1996.

柳生不二雄「彫刻のあるまちづくり=生口島と北木島--瀬戸内海の 2 つの島で」『三彩』, 三彩社, 1990. 1., pp76-84

【Surf'90 石の彫刻オープンアトリエ】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【パークヒルズ田原彫刻シンポジウム】

『関西文化学術研究都市パークヒルズ田原彫刻シンポジウム 1990』住宅・都市整備公団関西支社　関西文化学術研究都市整備局, 1990.

北野正治「パークヒルズ田原彫刻シンポジウム」『夙川学院短期大学研究紀要』17, 夙川学院短期大学, 1993. 3., pp.8-10

山本哲三「彫刻シンポジウムと共同制作」『藝術』32, 大阪芸術大学, 2009. 12., pp.5-17

山本哲三「パークヒルズ田原彫刻シンポジウムに参加して」『モニュメントプロデュース』33, 渡辺石彫事務所・渡辺石整社, 1991. 2., pp.54-59

【マルタ大島国際彫刻シンポジウム】

『第 1 回大島ストーンフェア ： マルタ-大島彫刻シンポジウム』, 1990.

【大和まほろば国際彫刻シンポジウム】

菅原 二郎「雨引の里と彫刻を通して見えてくる野外彫刻の可能性 」『芸術』　23, 大阪芸術大学, 2000., pp.174-184

【いなみ国際木彫キャンプ】

『いなみ国際木彫刻キャンプの評価と井波の未来』「いなみ国際木彫刻キャンプの評価と井波の未来」研究グループ, 1998.

『いなみ国際木彫刻キャンプ'95』いなみ国際木彫刻キャンプ実行委員会事務局, 1995.

『いなみ国際木彫刻キャンプ'99』いなみ国際木彫刻キャンプ実行委員会事務局, 1999.

パブリックアート・フォーラム,

『いなみ国際木彫刻キャンプの評価と井波の未来　報告書』「いなみ国際木彫刻キャンプの評価と井波の未

来」研究グループ, 1988.

田中 晴人 , 横山 幸文 , 高橋 誠一「伝統産業と環境変化」高岡短期大学紀要 7, 富山大学, 1996., pp.159-167

大和 秀夫「木彫刻キャンプと国際交流--富山県井波町」文部時報, (1407) , 1994/03 , ぎょうせい, 1994. 3., pp.26-29

井波わくわく塾「いなみパブリックアートガイドマップ」（小冊子）井波町, 1999.

【関ヶ原彫刻シンポジウム】

『第 1 回関ヶ原石彫進歩自由夢　制作作品紹介』, 1991.

関ヶ原石彫シンポジウム実行委員会編『第 1 回関ヶ原石彫シンポジウム』 関ヶ原町役場, 1992.

関ヶ原石彫シンポジウム実行委員会編『第 2 回関ヶ原石彫シンポジウム』関ヶ原町役場, 1993.

【石彫のつどい（蛭川)】

『第 1 回石彫のつどい』石彫のつどい実行委員会, 1991.

『第 2 回石彫のつどい』石彫のつどい実行委員会, 1992.

『第 3 回石彫のつどい』石彫のつどい実行委員会, 1993.

『第 4 回石彫のつどい』石彫のつどい実行委員会, 1994.

『第 5 回石彫のつどい』石彫のつどい実行委員会, 1995.

『第 6 回石彫のつどい』石彫のつどい実行委員会, 1996.

『地域の個性とパブリックアート：パブリックアート・フォーラム第 4 回全国シンポジウム・四日市の記録』パブリックアート・フォーラム, 1998.

「人と自然の共生　野外彫刻ガイドブック」（小冊子）蛭川村, 1996.

【菊池高原彫刻シンポジウム 91】

スコーレ興発監修『国際彫刻』, 1991.

柳生不二雄「菊池高原彫刻シンポジウム′91--スコーレ菊池高原,黎明の丘からのメッセージ」『三彩』通号 529, 三彩社, 1991. 1., pp.48-51

【村岡町国際彫刻シンポウム】

豊福俊英「村岡町の兎塚・学びの里整備事業」『土木学会誌』79(1), 土木学会, 1994. 1.,

「地元産出の石で公園づくり」『美術手帖』44(661), 美術出版社, 1992. 11.,

【街と彫刻～琉球弧・美の渦流】

街と彫刻展実行委員会『第 1 回街と彫刻展』街と彫刻展実行委員会, 1992.

街と彫刻展実行委員会『第 2 回街と彫刻展』街と彫刻展実行委員会, 1993.

街と彫刻展実行委員会『第 3 回街と彫刻展』街と彫刻展実行委員会, 1994.

街と彫刻展実行委員会『第 4 回街と彫刻展』街と彫刻展実行委員会, 1995.

琉球弧・美の渦流実行委員会『琉球弧・美の渦流 ： 琉球諸島芸術計画 1996』琉球弧・美の渦流実行委員会, 1996.

琉球弧・美の渦流実行委員会『琉球弧・美の渦流 ： 琉球諸島芸術計画 1997』琉球弧・美の渦流実行委員会, 1997.

琉球弧・美の渦流実行委員会『琉球弧・美の渦流 ： 琉球諸島芸術計画 1998』琉球弧・美の渦流実行委員会, 1998.

【あぶくまストーンコンベンション】

『あぶくまストーン・コンベンション報告書』福島県相馬郡飯舘村, 1995.

福島県飯舘村企画調整課編『あぶくまストーン・コンベンション作品集』福島県飯舘村企画調整課, 1996.

【やしろ星の彫刻国際シンポジウム】

『やしろ星の彫刻国際シンポジウム』, 1993.

【アーチスツ・キャンプ・イン・カサマ】

「企画書　笠間芸術の森公園野外石彫制作展」笠間芸術の森公園野外石彫制作展実行委員会, 1994.

【宝塚石彫シンポジウム】

【十日町石彫シンポジウム】

十日町石彫シンポジウム実行委員会編『十日町石彫シンポジウム ： 第 1 回-第 10 回（1995-2004）』十日町石彫シンポジウム実行委員会, 2004.

『十日町石彫シンポジウム』; 第 4 回(1998)十日町市芸術協会, 1999.

宮澤 光造「第 10 回十日町石彫シンポジュウム」『尚美学園大学芸術情報学部紀要』5, , 2004. 12.,

【七尾国際彫刻シンポジウム】

『七尾国際石彫シンポジウム'95』七尾市, 1995.

『七尾国際石彫シンポジウム'96』七尾市, 1996.

『七尾国際石彫シンポジウム '97』七尾市, 1997.

『地域の活性化とパブリックアート：第 5 回全国パブリックアート・フォーラム高岡の記録』パブリックアート・フォーラム, 1998.

【安比高原彫刻シンポジウム】

安比高原彫刻シンポジウム実行委員会編『安比高原彫刻シンポジウム 』安比高原彫刻シンポジウム推進協議会, 1996.

「第 1 回安比高原彫刻シンポジウム　人・調和そして未来　開催要項」安比高原彫刻シンポジウム推進協議会, 1996.

安比高原彫刻シンポジウム実行委員会編『第 2 回安比高原彫刻シンポジウム』安比高原彫刻シンポジウム推進協議会, 1998.

【1997 国際彫刻シンポジウム in 仙台】

佐藤淳一編『1997 国際彫刻シンポジウム in 仙台』国際彫刻シンポジウム in 仙台実行委員会, 1997.

【糸満市国際石彫シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【アーティスト・イン・レジデンス宇土】

本田貴侶、奥西麻由子「宇土国際彫刻シンポジウムからの馬門石(まかどいし)造形見本の提案--石彫表現の可能性と題材開発をもたらす実践事例」『埼玉大学紀要. 教育学部. 人文・社会科学』55(2), 埼玉大学教育学部, 2006., pp.29-42

【秋田国際木彫シンポジウム】

種市正晴「主要野外彫刻展・シンポジウム（野外制作）の一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュー

ス』2, 国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー, 1997. 9., pp.6-33

【海外シンポジウム】

高橋清「むき出しの太陽に挑む--メキシコ・オリンピック国際彫刻シンポジウム」『美術手帖』通号 305, 美術出版社, 1968. 12., pp.150-155

山本哲三「彫刻シンポジウムと共同制作」『藝術』32, 大阪芸術大学, 2009. 12., pp.5-17

森本昭宏「ホイヤー国際彫刻シンポジウムに参加して」『武蔵野短期大学研究紀要』18, 武蔵野短期大学, 2004., pp.135-137

柳生不二雄「かい間みたオデッサ--現代美術の状況と彫刻シンポジウム」『三彩』通号 519, 三彩社, 1990. 12., pp72-75

田中栄作「ユーゴラスビア彫刻シンポジウムに参加して」『美術手帖』通号 196, 美術出版社, 1961. 1., pp.24-27

李慶成「'87 国際彫刻シンポジウム--壮大なスケールの野外彫刻 」『三彩』通号 485, 三彩社, 1988. 2., pp.74-77

水井康雄「モンブランにいどむ--「山上の彫刻-空間の詩-」展」『芸術新潮』 24(9), 新潮社, 1973. 9., pp.142-144

水井康雄「石切場の饗宴--ウィーン郊外の彫刻シンポージョン」『芸術新潮』 12(1), 新潮社, 1961. 1., pp.80-82

石黒鏘二「アートの旅　過去・現在・未来」『アートペーパー』80, 名古屋市美術館, 2009. 4., pp.1

水井康雄『水井康雄制作集』水井康雄制作集編集事務局, 1985.

庄司達「七人の侍ドイツで街づくり」『美術手帖』, 美術出版社, 1972. 2.,

難波 章人「コミュニケーションとしての彫刻--イタリアでの彫刻シンポジウムにおける彫刻制作からの考察」『純真紀要』48, 純真短期大学, 2008. 3., pp.289-299

山本哲三「小豆島、サンクト・マルガレーテン、そして彫刻シンポジューム」大阪芸術彫塑年報 1, 大阪芸術大学, 1972.

論文の内容の要旨

論文題目　　日本における彫刻シンポジウム：芸術家の共同体と彫刻の社会化の観点から
氏　　名　　柴田葵

現代の芸術においては、作り手の自我・個・独自性が創造行為の源であり、芸術作品の真髄であるとみなされる一方で、それが一定程度他者から共感されたり社会的な評価を得るためには、個の次元を脱却した普遍性が求められるという、根本的なジレンマが多かれ少なかれ存在し続けてきた。とりわけ、開かれた公共空間に置かれるパブリック・アート(public art)については、多くの人々によってその美や価値が理解され、コミュニティに対する何らかの社会的・公共的な貢献を果たすことが期待されている。近代的個人主義に基づいて芸術家が創造活動に邁進する中で、作品はいかにして普遍性を獲得しうるのだろうか。芸術がそれ自体の価値を犠牲にすることなく、同時に社会的価値を発揮することは可能だろうか。このような「個と普遍性」をめぐる相克を、現代の芸術はどのように乗り越えようとしてきたのだろうか。

これらの問いかけに対する手がかりとなりうる応答の一つとして、「彫刻シンポジウム」(Bildhauersymposion)と呼ばれる芸術運動を挙げることができる。彫刻シンポジウムとは、国境を越えて集まった彫刻家たちが、一定期間創作と生活の場を共有しながら、作品を公開制作する一連の活動である。その形式には様々なバリエーションがあるが、最もオーソドックスな形式は、野外の石切り場における共同制作である。世界各国から彫刻家たちが石切り場に集まり、原石の切り出される現場で石彫の制作を行い、その過程を一般に公開する。彫刻家たちは近隣の民家や施設などに数ヶ月滞在し、他の作家や地元住民と交流を深める。そして完成した作品はその地域に対して寄贈される、というのがシンポジウムの典型的なスタイルである。

彫刻シンポジウムは、彫刻家カール・プラントル(Karl Prantl, 1923-2010)らによって提唱され、1959 年のオーストリアで最初の実践が試みられた。それ以降、主にドイツ語圏地域や東ヨーロッパを中心として、シンポジウムは世界規模に拡大するようになった。我が国でも 1963 年に神奈川県・真鶴半島で最初のシンポジウムが開催されている。世界的に見てシンポジウムはおおむね 1970 年代にその最盛期を迎えつつも、地域的に一層多様化する形で、現在も世界中で様々な試みが行われ続けている。

本研究は日本の彫刻シンポジウムを、国際的な芸術運動であり、芸術創造プロセスの社会的共有化の場であるという観点から再検討・再評価すると共に、彫刻と社会をめぐる我が国特有の文脈をその都度ふまえながら、その変遷と到達点、限界と課題を明らかにすることを目指す。

本論文は、**序章**を含む全 10 章および付論 2 章から構成されている。

「第 2 章　石彫と野外彫刻の思想」では、彫刻シンポジウム成立の重要な前史である、20 世紀初頭の彫刻をめぐる根本的な変容、とりわけブランクーシを転換点とする石彫の革命と野外彫刻の思想について論じる。**「第 3 章　彫刻シンポジウムの理念」**では、創始者プラントルのシンポジウム理念を中心に、ヨーロッパにおける初期彫刻シンポジウムの理念における代表的な議論を検討する。

「第 4 章　戦後日本の現代彫刻」では日本の 1950 年代から 60 年代にかけての、現代彫刻の発展と社会進出について概観する。特に重要視するのは、抽象彫刻の台頭、国際美術展等を通じた現代欧米美術からの影響力、美術館の新設による彫刻の発表／受容の場の拡大という事象である。

それ以降は日本の彫刻シンポジウムを、次の 4 つの時期に分けて記述する。

・第 1 期(1963-1972)草創期

・第 2 期(1973-1981)発展期

・第 3 期(1982-1999)全盛期

・第 4 期(2000-)低迷期

「第 5 章　第 1 期(1963-1972)草創期」

第 1 期「草創期」は、1963 年に日本で初めての彫刻シンポジウムが開催されてからの約 10 年間を指す。この時期には、例外的に大規模な事業を除いて、基本的には作家たちの自主的な企画運営による、彫刻家共同型のシンポジウムが行われており、一般の市民にはあまり認知されていない状態にあった。

「第 6 章　第 2 期(1973-1981)「彫刻のあるまちづくり」との連携」

それに対して、シンポジウムが市民へと開かれていく契機を持った事例の登場をもって、1973 年からの第 2 期「発展期」が始まる。シンポジウムの担い手が、作家だけではなく市民や地方自治体にも広がると共に、「彫刻のあるまちづくり」をはじめとする市民運動や自治体文化行政と結び付けられるようになった。本章で取り上げる 3 つの代表的事例(岩手町、盛岡、八王子)はいずれも、当初は市民に理解されなかった彫刻シンポジウム

が、地域へのはたらきかけを通じて次第にその公共性を認められるようになり、芸術家・市民・行政の協働による、まちづくりの契機への変質していった事例である。その傾向がさらに進行すると、彫刻シンポジウムは自治体文化行政にとってありふれた自明のものとなり、野外彫刻を入手・設置するための手段と位置付けられるようになる。

「第 7 章　第 2 期(1973-1981)都市計画・景観デザイン・環境芸術」

1970 年代以降、都市計画や景観デザインの重要性の認識が社会的に高まるようになると、その影響はアートの領域にも及ぶようになる。さらに、1960 年代末のアメリカで誕生した環境芸術(アースワーク／ランドアート)の流れとも相まって、公共のプロジェクトにおいて建築家・都市計画家・景観デザイナーとアーティストが協働する機会が増加した。

同時代におけるシンポジウムの世界的な環境芸術化、都市志向化の影響を受けて、日本でも環境芸術的な彫刻シンポジウムが登場するようになった。

「第 8 章　第 3 期(1982-1998)全盛期」

1980-90 年代は、地方自治体における「彫刻のあるまちづくり」やパブリック・アートのブームを背景として、日本における彫刻シンポジウムの最盛期でもある。第 3 期「全盛期」は、1996～1997 年頃をピークとして、彫刻シンポジウムが全国各地で多数花開いた時期である。多様な展開や深化が見られると同時に、シンポジウム自体の慢性化・形骸化の端緒をはらむものでもあった。

「第 9 章　アート・プロジェクトの時代へ」

彫刻シンポジウムは 1996 年にピークを迎えた後、2000 年代に入って急速に開催数や参加作家数が減少した。本章では、第 4 期「低迷期」におけるシンポジウムの凋落・低迷および原点回帰の現象について、彫刻シンポジウム自体の内部的な危機、そしてアート・プロジェクトやアーティスト・イン・レジデンスなど、新しく台頭してきた社会と関わるアートの形態に取って代わられていったこと、という二つの観点から論じる。

「終章」

シンポジウムの主体・目的の多様化と共に、理念が拡散し内容は形骸化の方向をたどり、そして彫刻シンポジウムが担ってきた社会的な価値が、他の様々な現代美術の活動によって代替可能なものとなるにつれて、1990 年代以降のアート・プロジェクトなどの興隆に圧倒される形で、シンポジウム全盛の時代は終わりを告げた。彫刻シンポジウムが目指してきた、コミュニティのための芸術、サイト・スペシフィック性、協働作業への志向性は現在、主にアート・プロジェクトの中に引き継がれていると言えるだろう。